

# お仏壇について

仏様やご先祖様、お位牌をお祀りしているご家庭には、大きさや形は異なれどもお仏壇があると思います。ではお仏壇とは一体何なのか、様々な角度から考えていきたいと思います。

## ○お仏壇のはじまり

お仏壇とはその漢字の通り、仏様を祀る壇のことです。元々は、お寺にある本堂の本尊様がいらっしゃる壇（須弥壇）がその始まりです。それが一般の家庭に普及するに従って今の形に変化しました。その始まりは『日本書紀』天武天皇十四年（六四五年）に「諸国の家ごとに仏舎を作り、佛像や経を祀り礼拝供養しなさい」とあるのを初見としますが、実際にはこの時には広まらず、元禄時代頃に普及したと考えられています。

## ○形について

現在のお仏壇の多くは屋根があり、そして扉がある立派な形が普及しています。しかし、元々がお寺の須弥壇（しゆみだん）であったことから、屋根や扉が無い素朴な壇でも問題はないと考えられます。もちろん、あるに越したことはありません。仏教の中でも特定の宗派はお仏壇の形が決まっていますが、真言宗においては特に形の規定はありません。ご家庭にあった大きさや形、材質で求められるのが良いと思います。むしろ何をお祀りして、どのように日々ご供養するかが最も大切なことです。

## ○向きについて

理想は南向きです。これは本堂の向きに倣っています。しかし、実際は本堂もその立地条件により様々な方角を向いて建立されています。しかし、拝む時には実際は東や西を向いていようと、自分には北に向かって拝んでいる（南向きなので北を向いて拝むことになる）と心で想って拝みましよう。つまり理想は南向きですが、それが不可能な場合は置き易い方角に向けてよいのです。そして心の中で、北向きに拝んでいると想えば良いのです。

## ○置く場所について

お仏様を大事なお客様と考えましょう。大事なお客様はどこにご案内するのでしょうか。清らかで、日当たりもよく、静かで・・・そんな場所です。また、稀に床の間にお仏壇を置いてはいけないというお話がありますが、床の間はむしろ一番の上座であり、仏様には相応しいのです。

## ○かざり方

お仏壇には様々な仏具をかざります。

① 香炉 こうろ

必ず中央に置きましょう。足が三本あれば、一本が手前にくるように置きます。

② 灯明・燭台 とうみやう しよくだい

蠟燭と台のことです。一対あれば香炉の両側に置きましょう。一つの場合は向かって右側に置きます。また、火を消す場合には息を吹きかけずに、手で仰ぐか団扇などを使いましょう。

③ 花

お花の正面が我々の方を向くように、燭台の外側に置きましょう。一つの場合は向かって左側に置きます。

④ 茶湯器 ちやとうき

お茶やお水をお供えする器です。毎朝お供え致しますしよう。

⑤ 仏飯器 ぶつばんき

ご飯をお供えする器です。毎朝お供え致しますしよう。

⑥ 高杯 たかつき

お菓子や果物などをお供え致します。半紙を敷くとより丁寧です。

⑦ 打ち鳴らし（かなまり）

日々のお勤めの時に使います。

これらが代表的なものです。出来るだけ全てを揃えることが好ましいです。しかしながら、全てを仏具屋に求める必要もありません。どんな器でも灰を入れれば香炉になります。高杯も普通の平皿で何ら問題はありませぬ。様々なもので代用し、御縁があつた時に本物を求めればよろしいと思えます。

また、かざる位置ですが左図を参考にして下さい。注意する点として、お仏壇が雛壇になつて居る場合、最上段には出来るだけご本尊様だけを安置致します。二段目よりお位牌を安置致します。それが無理な場合には、本尊様を安置する最上段の左右よりお位牌を安置しても構いません。その場合、向かって右が昔のお位牌になるように注意しましょう。雛壇ではなく、一段のみのお仏壇の場合には最奥にご本尊様、その手前より左図の様にかざりましょう。お仏壇の大きさで全てをかざれない場合もあります。その時は手前に、小さな机を設けてもよいでしょう。

## ○本尊様について

真言宗のお仏壇は、中央に大日如来様、向かって右に弘法大師様、左に不動明王様をお祀りするのが一般的です。それぞれ木で造立しても良いですし、お軸でお祀りしても構いません。もし一体だけしかお祀り出来なければ、大日如来様が好ましいです。また、必ずしも大日如来様ではなくとも構いません。自分が拝みたいお仏様をお祀りしても良いです。真言宗寺院のご本尊様は本当に様々です。阿弥陀様やお薬師様、お地藏さま、毘沙門天<sup>びしゃもんてん</sup>……。なぜならば、それら全ては大日如来様が姿を変えた仏様だからです。すべての仏様は、拜めば大日如来様へ通じるのです。真言宗の開祖である弘法大師空海上人を中央にお祀りするのも宜しいでしょう。注意することとして、新しく仏様をお迎えしたら必ずお坊さんに頼んで開眼供養<sup>かいげん</sup>（俗に言う魂入れ）をしましょう。

## ○お仏壇を新しく求める場合

新しいお仏壇を使う前には必ずお坊さんに拜んでももらいましょう。本尊様に魂を入れることはよく知られておりますが、お仏壇も拜まなければいけないことは意外に知られていません。拜むことでお仏壇を仏様の住まいたらしめるのです。そのような作法が真言宗には連綿と受け継がれておるのです。また、古いお仏壇も撤去する前には必ずお坊さんに拜んでもらいご供養致しましょう。

## ○お仏壇の意義

お仏壇の「仏」とは、本尊様であり、ご先祖様のことであります。本尊様はご先祖様（狭義にはお位牌）を護り、そして本尊様とご先祖様は皆様をお護りします。毎朝「一日よろしくお願い致します」と手を合わせ、帰ってきたら「今日も一日ありがとうございました」と手を合わせましょう。この繰り返しで、自分へ執着する「我執<sup>がしゅう</sup>」を少しだけ離れることが出来ます。私たちは一人で生きているのではない、護られ、そして生かされているという自覚を持つことで、他への優しい慈悲の心が芽生えるからです。つまり、自分が一番という我儘<sup>わがまま</sup>な心が段々と、他を思い遣る優しい心へと変化していくのです。また、日々ご先祖様を意識することで、連綿と続く生命の摩訶不思議な繋がりを感ずることが出来ます。ご先祖様が一人として欠けても、今の私たちは存在しません。なんと不思議なことでしょうか。なんと私たちの存在は有難いことでしょうか。

忙しい朝の時間ではありますが、お線香を焚いて手を合わせる、一分だけでも結構です。毎日続けてみましょう。すぐには変化が無いかも知れませんが、でも種を蒔かなければ芽は出ません。やってみなければその本当の意味は分からないものです。仏教は現実世界での実践行を説いています。是非とも実践し、慈悲の心を磨き輝かせて頂ければと思います。